

交通渋滞の緩和策

1. 概要

1.1. 渋滞による被害

博多、天神を含む福岡市の市街地は交通量が非常に多く、朝の通勤時間や夕方の帰宅時間においては交通渋滞が頻繁に発生している。交通渋滞が発生することによって、バスの遅延や無茶な運転による交通事故、裏道として住宅街や歩行者が多い細道を通ることによる騒音・振動被害や歩行者との接触事故等様々な被害を引き起こす。

1.2. 被害対策

このような事故や被害を解消するためには、市街地を走行する車の交通量を減らす必要がある。そもそも市街地の交通量が多い原因としては、自家用車を出勤に用いる人が多いことや市街地に幹線道路が貫通しているため市街地に用事のない車も市街地に乗り入れていること等が考えられる。このような車を利用する人を減らし渋滞を緩和するためには、新たな公共の交通手段を導入し、より多くの人に利用してもらうことが必要である。そこで福岡に導入する新たな公共輸送として、私はバスを用いた BRT を提案する。



2. BRT

2.1. BRT とは？

BRT とは、Bus Rapid Transit の略で「バス高速輸送システム」のことである。BRT を導入することに対する利点は以下の通りである。



- バス専用レーンやバス優先信号があり、通行速度は一般車と異なるため定時制を確保しやすくなる。
- 快速と各停留所停車のバスがあり、乗り換えた際の初乗り運賃はかからない。
- LRT に比べると初期投資が安く済む。
- バスであるため、路線の変更が容易で乗客のニーズにこたえやすい。
- 福岡市はバス停が多いため、バス停の新設は少なく済ませることができる。
- 都市内の車が減ることで、駐車場や道路が減り、都心機能の維持や街の活性化を図

ることができる。

- 一度に多くの人を運ぶことができ、大気汚染や騒音、事故等で社会に与える損傷を減らすことができる。
- バスが今以上に利用しやすくなることで、移動手段がなく引きこもりがちのお年寄りも外出をしやすくなる。そして、外出して健康的な生活を送ることで、医療費削減につながる。

2.2. BRT 導入の際の問題点と改善策

普段あまり利用していない人の中にはバスは分かりにくく苦手という人も多い。

このような人のために、ホームを設けて路線ごとの乗り場をわけ、乗り場が分かればバスが分かるようにする。ホームを設置するまでの期間は、路線やバスの種類（快速と各停留所停車）毎にバスの塗装やデザインを変え、バス停にはバスの外装毎の路線やバスの種類を明記し、電光掲示板を確認し忘れてもバスの外装だけで行先が分かるようにする。

駅やショッピングモールなどの主要施設の停留所や乗り換えを要する停留所では、乗り降りする人が多くバスの降り口は運賃の支払いで混雑する。

降り口が混雑する理由としては、運賃の支払い箇所が出口の1カ所しかないことやバスが止まってからしか運賃が支払えないことの他にも、利用客の中にはICカードのチャージ金不足の人や両替をし忘れていた人、バスの運賃のシステムが分からず戸惑う外国人がいるということも関わっていると考えられる。これらの問題を改善するために、各バス停に電車の駅にあるような切符販売所を設置しバスに乗る前に運賃を支払う方法を取り入れたり、ICカードはかざさなくても残金がカードに表示されるようにしたり、外国人向けのバス利用方法の説明書や表示をする。

バスレーンでの路上駐車が遅延に繋がる。

これを防ぐ方法としては、バス停を突出させ駐停車車両の影響を排除する、違法車に対して警告のアナウンスをする等考えられる。

